



人権と平和は
21世紀のキーワード

人権が危ない！ ～ 差別を商う人たち ～

2011年1月21日(金) ～ 2月27日(日)

現在発行されている運転免許証は、従来あった本籍欄が空白になっています。これは運転免許証のICカード化にともない、個人情報保護のために行われているものです。こうした個人情報保護の意識は、他人の戸籍謄本や住民票を不正に取得し、それを悪用した事件が繰り返し発生することから、いっそう高まっています。

戸籍や住民票には、本籍のほか、個人の氏名や生年月日などの身分事項、親子や夫婦などの家族関係といった、私たちが社会生活を送る上で基本になる、大切な個人情報が記載されています。

従来、戸籍や住民票は公開が原則で、だれでも戸籍謄本等の交付請求ができることになっていました。しかし、身元調査のために戸籍や住民票を不正に取得して、興信所に売り渡す事件や、不正取得した戸籍謄本などを使用し、他人名義で消費者金融から多額の借り入れをする事件、勝手に婚姻届を提出したり養子縁組をしたりする事件、などが発生していることから、戸籍の取得や婚姻などの届け出の際には、「本人確認の徹底」や「使用目的の確認」が義務づけられるようになりました。

また、戸籍謄本等が不正に取得された場合には、対象者に取得の経緯を報告し、被害の有無を確認する「本人告知制度」や、第三者や代理人からの請求によって、戸籍謄本や住民票などの写しを交付した場合、交付した事実を本人に知らせる「本人通知制度」の導入も、全国の自治体で始まっています。

企画展「人権が危ない！」は、悪質な身元調査につながる、戸籍謄本等の不正取得事件の問題点と、それを防止するための、個人情報保護の取り組みを中心に構成しています。

身元調査は偏見や差別を助長し、様々な人権侵害に結びつく、許しがたい行為ですが、それが起こる背景には、それを利用しようとする個人や社会的な雰囲気、依然としてあるということです。

一人ひとりが尊重され、安心してらせる地域社会の実現に向けて、ともに考えていきましょう。



2010年度の企画展から

今年度も、企画展にたくさんの意見をいただきました。その一部を紹介します。

■「アジアの子どもたちの絵日記展」

- ・いろんなくにの、おともだちの、えにっきがみれてよかった。とてもえが、じょうずでした。たくさんのくにがあることに、びっくりしました。おおきくなったら、いってみたいと、おもいました。(小学生)
- ・アジアの子どもたちの絵日記展を見て、絵が上手だなと思いました。日記の中の絵が、その国の持ちょうが見れてよかった。いろんな人に、見学してほしいから、2回にするとか、きかんののぼすとか、くふうしてほしいです。(小学生)

■「漫画家たち百二十二名の八月十五日」

- ・新聞で「漫画家たち百二十二名の八月十五日」という見出しをみつけて見学しました。百二十二名、よくまあ集まったものと感心します。水木しげるの「鼻くそを投げると敵が口を開けて待っている、という感じの最前線にいた」。重い戦争を軽いタッチで笑わせてくれる。さすが。小沢昭一の「よし、できるだけ多量に物品を持って帰ろう」と。私でもそう思うだろうと。永六輔の「先生の土下座」。やっぱりそういう先生もいらしたんだなと、人間味を感じた。
- ・昨日8月6日を迎えたというのと、漫画家たちの絵を見ておきたくて足を運びました。その中の1枚、白吉辰三さんの絵は、私の実家のすぐ近くの絵でした。65年前 本当に起きていたのかと、なかなか実感がわきませんが、これからも戦争のない平和な国でありますようにと祈るばかりです。自分たちも、できることから何かしていかなければいけないと思いました。
- ・とてもすごかったです。絵があったので、分かりやすいものがたくさんありました。水木しげるさんの「助かった」は、あまり食べ物のない南の島で、日本軍の相手との戦い、がんばっていたのがすごいと思いました。やなせたかしさんは、とてもやさしいと思いました。子どもに少しでも空腹をいやしてあげたい、アンパンでも食べさせてあげたい、それでアンパンパンができたと聞き、感動しました。
- ・私、83歳。終戦は兵役（茨城県筑紫航空隊）にて。今回のイベントは、当時を知る私には、実感、回想、感無量。今日の日本を有り難く思い、残り少ない日々を感謝で送ります。

■「沖縄の歴史と文化」

- ・沖縄の歴史と文化についての展示、これだけ体系的に、福山の地で開催されたことは素晴らしいと思います。沖縄の問題は、日本人の問題であること、人権の問題であることを再確認できました。
- ・米軍基地問題が政治問題化する今日、大変タイムリーな企画でした。今日まで私たち日本人は、沖縄が日本の一部としての歴史をたどってきたと信じてきたことが、どうやら疑わしいことが理解できたように思います。また、明治以降の植民地政策を基本的に引き継いでいることで、沖縄の人々に対する差別があるのです。基地が集中していること、これが差別でなくしてなんでしょうか。それにしても、沖縄と「本土」の人々の意識の差はどう説明するのか。私たちに、厳しい反省を求められているように思います。
- ・沖縄を知るよい機会となった。この施設は長いこと福山に居住しているのに始めてあり、今後の企画展も期待したい。尾道に比べ、文化創造活動が低調。市民・行政ともに、更なる行動が求められる。